



2020年6月12日

各 位

東京都目黒区大橋一丁目5番1号
株式会社C A I C A
代表取締役社長 鈴木 伸
(JASDAQ: 2315)
問合せ先:
代表取締役副社長 山口 健治
TEL 03-5657-3000 (代表)

2020年10月期連結業績予想の修正に関するお知らせ

新型コロナウイルスの感染拡大による業績への影響および連結子会社であった株式会社クシムの連結除外による影響等をふまえ、2020年3月13日に公表した2020年10月期連結業績予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2020年10月期連結業績予想値の修正 (2019年11月1日～2020年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	8,044	350	133	10	0 03
今回修正予想 (B)	6,567	△109	△226	146	0 40
増減額 (B-A)	△1,476	△459	△359	136	—
増減率 (%)	△18.4	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2019年10月期)	7,600	△615	△1,111	△1,753	△4 86

2. 業績予想修正の主な理由

このたび、新型コロナウイルスの感染拡大による業績への影響および連結子会社であった株式会社クシム（旧商号：アイスタディ株式会社、以下、「クシム」といいます。）の連結除外による影響等をふまえ、2020年10月期連結業績予想値を見直した結果、連結売上高は6,567百万円（前回予想比1,476百万円減）、営業利益は△109百万円（前回予想比459百万円減）、経常利益は△226百万円（前回予想比359百万円減）、親会社株主に帰属する当期純利益は146百万円（前回予想比136百万円増）に修正いたしました。

売上高の減少は主にクシムの株式を売却し、下期連結から除外される影響によるものです。営業利益、経常利益の減少は主に売上高減少に伴う減少、親会社株主に帰属する当期純利益の増加は、5月および6月に行ったクシム株式の売却により、特別利益を計上することによるものです。

情報サービス事業においては、既存案件は概ね予定どおり推移しているものの、新規顧客案件について顧客先の案件見合わせ等により第3四半期以降の受注が当初の想定より減少する見通しである一方、新事業である、テレワークおよび情報セキュリティ関連の案件については引き合いも多く、新規顧客案件の

目減り分を一定量補うものと見込んでおります。これらの結果、情報サービス事業における通期売上高は4,945百万円（前回予想比365百万円減）、通期セグメント利益は77百万円（前回予想比117百万円減）を見込んでおります。

暗号資産関連事業においては、暗号資産取引所トータルソリューションの外販は、営業先の新規投資の見合わせにより第3四半期以降の受注が当初の想定より減少すると見込んでおります。一方、株式会社フィスコ仮想通貨取引所における暗号資産交換所「Zaif」向け案件の引合いは活発であり、暗号資産取引所トータルソリューションの受注減少分を一定量補うものと見込んでおります。これらの結果、暗号資産関連事業における通期売上高は478百万円（前回予想比117百万円減）、通期セグメント利益は△23百万円（前回予想比96百万円減）を見込んでおります。

金融商品取引事業においては、新型コロナウイルスの影響により株式市場が急変したことに伴い、想定を超える株価等の変動によりトレーディング収益が悪化いたしました。今回の金融市場の大きな変動を受け、リスク管理及び管理体制等の見直しを行った結果、5月度は単月で黒字転換となるなど、最悪期は脱したと判断しておりますが、前月までの落ち込み分を補うまでには至りませんでした。今後は、次の収益の柱となる暗号資産にかかる新商品の開発販売に注力してまいります。これらの結果、金融商品取引事業における通期売上高は510百万円（前回予想比278百万円減）、通期セグメント利益は△139百万円（前回予想比208百万円減）を見込んでおります。

HRテクノロジー事業においては、財務体質の強化策として十分な手元資金を確保することや有利子負債の一部返済を目的として、2020年4月28日付で連結子会社であったクシムの株式の一部を売却しました。この結果、クシムは持分法適用関連会社となりました。さらに2020年6月11日付にて追加で株式の売却をおこない、持分法適用関連会社でなくなったことから、クシム及びその子会社の業績は第3四半期より連結から除外されます。なお、本売却により、第3四半期において特別利益を計上する見込みです。これらの結果、HRテクノロジー事業における通期売上高は881百万円（前回予想比964百万円減）、通期セグメント利益は△18百万円（前回予想比165百万円減）を見込んでおります。（連結調整未反映）

第3四半期以降、一層の販管費及び一般管理費の削減を行う予定です。具体的には、本社事務所移転（賃料半減）による経費圧縮やテレワークの定着による各種会議体の効率化や業務のデジタル化を強力に推し進め、約30百万円を削減する予定です。また、上述のとおり、5月および6月に行ったクシム株式の売却益407百万円を第3四半期において特別利益として計上する見込みです。

（注）上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上